

令和6年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立上小 小学校)

学校番号 70

【様式】

目指す学校像	通いがいい・通わせがよい、働きがよいがある学校 ○ 安心して、学ぶ喜びや友達と関わる楽しさが味わえる学校 ○ 保護者や地域から信頼される学校 ○ 健康で、ともに磨き合いながら成長できる学校
重点目標	1 「学びのポイント」（じしゃく）の視点に基づいた授業の推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長、進化に向けた理念、方策の共有と実行 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい（Well-Being）学校をつくる教職員研修の充実

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○スタディサプリ、ドリルパークを自主学習に活用し、個別の課題解決に向けて学期に 1 回以上相談することができている。 ○授業の中で伝え合う機会は複数回いれて実施することが定着した。学力調査の結果からも向上が認められる。 ○児童アンケート「授業が楽しく、わかりやすい」について肯定的評価が 94％であった。 〈課題〉 ○「話すこと・聞くこと」に関する力は向上してきているが、更に表現力を高めるためにも、「伝え合う活動」を意図的に学習の中に設ける必要がある。 ○教職員のアンケートから「主体的に学ぶこと」「協働し、試行錯誤すること」等に課題があると感じている教職員が多いことがわかった。	・主体的に学びを進める指導の工夫	①「学びの指標」を踏まえた、学習者が主体的に学ぶ授業を実施する。 ②家庭学習の一環として、自主学習を奨励する。	①「学びの指標」における「主体的な学び」の項目の平均値が 3.2 以上(満点は 4) ②家庭学習に関する児童アンケートで「自主学習に取り組んだ」に肯定的な回答をする児童が 8 割以上。	①「学びの指標」における「主体的な学び」の項目の全校平均値は 3.41 となり、目標を達成した。 ②児童アンケート「進んで学習に取り組んでいる」に肯定的な回答をする児童は 92％となり、目標を達成した。	A	①引き続き、主体的に学ぶ児童の育成に向けて、校内研修を通して、「自分で決める」場面を設定するなど、授業改善に取り組んでいく。 ②家庭学習でも自主学習を奨励し、進んで学習に取り組む習慣を作れるように指導していく。	・成果が上がっていることは評価できる。 ・考えたことを言語化することは中学校でも課題として捉えている。伝え合う活動としてどのようなことに取り組んできたかを明確にできるとよい。この取り組みの成果が後の小・中一貫教育につながると思う。 ・年度当初の課題に「試行錯誤すること」とあるが、試行錯誤についてはどうだったか？「伝え合う活動」が形式的ではなく、内容面で試行錯誤や質の高まりにつながるような協働学習になるといいだろう。
		・探究的に学びを深める指導の工夫	①「学びの指標」を踏まえた、学習者が探究的に学ぶ授業を実施する。 ②協働的な学び（伝え合う活動、根拠となる情報を正しく理解し表現する学習等）を効果的に取り入れた研究授業または公開授業を全教員が一人 1 回以上行い、指導法の工夫と効果について検証する。	①「学びの指標」における「探究的な学び」の項目の平均値が 3.2 以上(満点は 4) ②全教員が一人 1 回以上の研究授業または公開授業を実施し、協働的な学びを効果的に取り入れた指導法について発表し、効果を検証する。	①「学びの指標」における「探究的な学び」の項目の全校平均値は 3.36 となり、目標を達成した。 ②全教員が一人 1 回以上の研究授業または公開授業を実施し、協働的な学びを効果的に取り入れた指導法について教員同士で研究協議し、授業の質の向上に役立てることができた。	A	①引き続き、探究的に学ぶ児童の育成に向けて、校内研修を通して、ペアや 3 人組で話し合う場面を設定するなど、協働的に学びを深める授業改善に取り組んでいく。 ②校内研修で全教員が自分の課題を設定し、一人 2 回以上の研究授業または公開授業を通して、主体的に授業改善に取り組む。	
2	〈現状〉 ○保護者アンケートの肯定的な回答が「いじめ防止」77％、「教育相談」84％であった。 ○児童アンケートの肯定的な回答が「あいさつ」90％、「掃除」94％、「廊下歩行」92％、「いじめをしないでなかよく生活」96％であった。 ○教職員アンケート「安全点検・点検後の処置」に関する肯定的回答は 96％であった。 〈課題〉 ○アンケートの結果を学年、学級に分けて分析して保護者・児童の否定的な考えの原因を明確にすることで、保護者・児童に個別最適な対応策が見えてくのではないかと。 ○小学生のスマートフォン所有率も高まり、SNS での誹謗中傷等のいじめ防止のための取組を今後は強化していく必要があるのではないかと。	・いじめの早期発見・早期対応に関する組織的対応	①スクールロイヤー等を講師とした、いじめ対応研修を実施する。 ②「心と生活のアンケート」「長期休業前アンケート」等において、実施、要面談児童との面談、報告、保護者との連携等、適切な対応を行う。 ③「『いのちの支え合い』を学ぶ授業」を 2 学期末までに全学年で実施する。	①スクールロイヤー等を講師とした、いじめ対応研修を実施したか。 ②保護者アンケートにおける肯定的回答が「いじめ対応」で 77％以上、「教育相談」で 84％以上。 ③「『いのちの支え合い』を学ぶ授業」を 2 学期末までに全学年で実施したか。	①スクールロイヤーを講師とした、いじめ対応研修を 4 月 1 0 日に実施した。 ②保護者アンケートにおける肯定的回答が「いじめ対応」で 83％、「教育相談」で 92％となり、目標を達成した。 ③「『いのちの支え合い』を学ぶ授業」は、2 学期末までに全学年で実施した。	A	①引き続き、スクールロイヤー等を講師としたいじめ対応研修を行う。 ②引き続き、「心と生活のアンケート」「長期休業前アンケート」等において、実施、要面談児童との面談、報告、保護者との連携等、適切な対応を行う。また、記録を作成し、教職員間での情報共有を図る。	・評価項目の達成状況から達成度は妥当であると思う。 ・スクールロイヤー等を講師としたいじめ対応研修はどのような内容だったのか教えてほしい。
		・安心・安全な学校生活に主体的に取り組む児童の育成	①毎月の教職員による施設設備の安全点検を確実に行う。 ②心身ともに健康で、なかよく、思いやりをもって生活できるように、「あいさつ」「清掃」「廊下歩行」「なかよく」の指導を丁寧に行う。 ③子どもたちがなかよく過ごせるように、児童主体の活動に取り組む。	①教職員アンケート「安全点検・点検後の処置」に関する肯定的回答が 96％以上。 ②児童アンケートの肯定的回答が「あいさつ」90％以上、「掃除」94％以上、「廊下歩行」92％以上、「いじめをしないでなかよく生活」96％以上。 ③子どもたちがなかよく過ごせるような児童主体の活動に取り組んだか。	①教職員アンケート「安全点検・点検後の処置」に関する肯定的評価は 100％だった。 ②児童アンケートの肯定的回答が「あいさつ」92％、「掃除」94％、「廊下歩行」90％、「いじめをしないでなかよく生活」95％となり、目標をほぼ達成した。 ③異年齢交流に年 8 回取り組み、子どもたちがなかよく過ごせるような児童主体の活動を行った。	A	①引き続き、安全点検等を確実に行う。 ②引き続き、あいさつ、掃除、廊下歩行、いじめをしないでなかよく生活について指導する。 ③来年度も異年齢交流を計画し、指導主体の活動を推進する。	
3	〈現状〉 ○保護者アンケート「情報の伝達」に関する項目で肯定的評価が 85％だった。 ○育成会や自治会、おやじの会と協働した行事（ビタゴラ工作教室、校庭花火開放、まつりプログラミング教室等）を実施した。 〈課題〉 ○学校 HP での情報発信について「がくぷり」からリンクを貼ったお知らせをするなど、PTA と連携して保護者に見てもらえるよう工夫する。 ○創立 5 0 周年記念行事等を学校、保護者、地域が連携・協働して実施する。	・情報発信への積極的な取組	①学校 HP での情報発信について「がくぷり」からリンクを貼ったお知らせをするなど、PTA と連携して保護者に見てもらえるよう工夫する。	①保護者アンケート「情報の発信」に関する項目の肯定的評価 85％以上。	①保護者アンケート「情報の発信」に関する項目の肯定的評価は 90％となり、目標を達成した。	A	①引き続き、「がくぷり」や学校安心メールを活用して学校の情報を発信していく。 ②「がくぷり」と学校安心メールの全家庭登録を維持する。	・評価項目の達成状況から達成度は妥当であると思う。 ・「がくぷり」配信のみで手紙を保護者が見ているのかが気になる。
		・創立 5 0 周年記念行事等の実施	①学校、保護者、地域が連携・協働し、式典、記念行事、記念誌発行、記念品配付等、心に残る取組を行う。	①式典、記念行事（航空写真、バルーンリリース、ビタゴラ工作教室）、記念誌発行、記念品配付等を通して、心に残る取組ができたか。	①式典、記念品配付、記念行事（航空写真、バルーンリリース、ビタゴラ工作教室等）を全て成功裏に終えることができた。記念誌、副読本は 3 月発行に向けて、最終校正を行っている。	A	①「がくぷり」を活用して自治会や育成会、おやじの会等の情報を発信し、地域や P T A の行事に参加する児童が増えるように協力する。	
4	〈現状〉 ○エバンジェリストを中心に、アプリの勉強会を毎月実施し、今、これから必要な知識・技能を広めることができた。 ○教職員同士の情報交換も日常的になり、全体のスキルアップに繋がっている。 ○教職員アンケート「ICT の効果的な活用が図られた授業を実施している」に肯定的回答が 88％であった。 〈課題〉 ○スクール・ダッシュボードのデータの利活用を工夫していくことが課題である。	・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい（Well-Being）学校をつくる研修の実施	①「学びの指標」を踏まえた、ICT を効果的に活用したアナログとデジタルのハイブリッド授業を実施する。 ②スクール・ダッシュボード等の情報を活用し、児童の学習状況や実態を把握した指導案作成を全教員が一人 1 回以上行い、データの利活用の方法について研究する。 ③一人ひとりの教職員が、年間を通して取り組む研修目標を設定し、目標達成に向けた自己研修を実施する。	①「学びの指標」における「ICT の活用」の項目の平均値が 3.2 以上(満点は 4) ②スクール・ダッシュボード等の情報を活用した指導案作成を全教員が一人 1 回以上行い、校内研修で共有する。 ③全教職員が自らの研修目標に向けて取り組み、結果として目標を達成することができたか、面談で確認する。	①「学びの指標」における「ICT の活用」の項目の学校平均値は 3.12 となり、目標をほぼ達成した。 ②スクール・ダッシュボードの情報を活用した指導案作成を全教員が一人 1 回行い、教育委員会による指導訪問時に共有した。 ③一人ひとりの教職員が、年間を通して取り組む研修目標等について、全教員がほぼ達成した。	B	①ICT の活用について、児童は ICT に慣れ、効果的に活用することができるようになった。 ②スクール・ダッシュボードの活用は進まなかった。来年度、各学級で入力時間を設定するなど、定着に向けた工夫改善を行う。 ③来年度は学校の研究テーマにそって、教員一人ひとりが自分で研究する教科等を決め研修を行うことで、主体的かつ個別最適な研修を行えるようにする。	・スクール・ダッシュボードは子どもの実態を把握することに意味がある。学習の振り返りも単元毎、週に 1 回、授業時間だけでなく家庭で記録するなど工夫できるとよいのではないかと。データの利活用により、習熟度別の学習形態等につながるのではないかと。 ・個人の研究テーマは教科担任制と関連できるとよい。

